

行政視察報告

令和6年7月22日（月）～7月24日（水）

福祉環境委員会

1、視察内容 / 視察先一覧

(1) 福岡地域戦略推進協議会

- ・ ソーシャルインパクトボンド（SIB）の仕組み及びそれを用いた認知症予防やがんの早期発見事業の成果等について

(2) 社会福祉法人ふくしをデザイン 特別養護老人ホームなごみの里

- ・ Roren の活動における工夫点や事業開始の経緯等について

(3) 鹿児島県日置市

- ・ 生ごみリサイクルの仕組み及び成果と課題について

(4) 鹿児島県大崎町

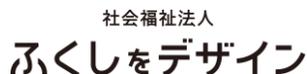
- ・ 資源リサイクル率日本一の取組内容について

2、選定理由



(1) 福岡地域戦略推進協議会 (Fukuoka D.C.)

民間資金や知見を活用し、官民連携による質の高い行政サービス提供を目指したSIB（ソーシャル・インパクト・ボンド）の手法及びそれを用いた認知症予防やがんの早期発見事業を学ぶため。



(2) 社会福祉法人ふくしをデザイン 特別養護老人ホームなごみの里@福岡県福岡市

高齢化が進む中、浜田市における高齢者の社会参画と介護予防活動の連動について、課題解決のヒントを見つけ、今後の提案につなげるため。

(3) 鹿児島県日置市

「カーボンニュートラルの推進」を具現化するために、「生ごみリサイクル」を通して、市民と共働しながら地球温暖化防止活動を行い、地域コミュニティを形成されている活動を参考とするため。また、堆肥化も行われており、オーガニックビレッジ宣言をした当市における農業から環境へのアプローチのヒントを得るため。



(4) 鹿児島県大崎町

「カーボンニュートラルの推進」を具現化するために、資源リサイクル率日本一である大崎町の分別収集から埋立ての仕組みを参考とするため。また、SDGs推進協議会等の官民一体の取組から協働の考え方を学ぶため。



3、視察報告

(2) Roren@福岡県福岡市

【視察内容の概要】

- Rorenとは老練の意。高齢者が人生で培ってきた技術や経験を発揮できる環境を整えたいという思いからスタートしたデイサービスでの取り組み。
- 「いかに社会と繋がっていくか」がキーワード。
- 福祉サービスの提供方法を見直し、社会全体の福祉水準を引き上げることを目指した革新的な取組としての挑戦。
- 福岡市の特性：平均年齢が低い、基幹産業が第三次産業という点に着目し、社会との接点作り（アプローチ方法）を考えた。
- 見守りや少しの手助けで行える活動を見つけ、今の時代の形に合わせ、社会との繋がりを創出する工夫がなされている（デザイン）。
- 高齢者が有する技術はさまざま、一から教える新たなものではない。
- あくまでも介護保険事業の中で行っているもので、売り上げは新しいチャレンジや義援金などに活用している。

【議員の所感（一部抜粋）】

- 行動を制限されることが多い高齢者だが、就労と社会参加の促進によって、本人の意欲や喜びを生んでいる好事例であった。
- このような取組が進むことで、介護度の改善や進行を遅らせることに繋がる可能性は大きい。
- 展示してあった一つ一つの作品から、高齢者の可能性（老練）を感じる事ができた。



* 事業担当者は作業療法士の香月氏



* 利用者の方々の作品



* 片手で操作できるよう工夫されたミル

3、視察報告

(3) 鹿児島県日置市

【視察内容の概要】

- 脱炭素先行地域⇒コツコツ (Co2Co2) 取り組む (17年間) がスローガン。
- 当初は手間が増えると市民が反発、忍耐強く説得。
- 一番ごみの中で水分が多い生ごみに着目し、リサイクル事業に着想。
- 平成24年、50世帯からスタートし現在は14,339世帯が参加。約1,000トン削減し、経費削減に繋がっている。
- 水切り用三角コーナーと家庭用バケツを市民に配布。ごみステーションに60ℓの樽を設置。現在約800ヶ所、24時間365日常設。
- リサイクルの過程で生まれる堆肥を販売。JAS認証取得。土壌改良や地域の緑化にも貢献。
- コツコツマイレージは生ゴミ1kgに対して10円の奨励金を7年間還元した。
- 食育にも期待しているが、堆肥を使った農家はまだ市内に少なく、生産者拡大は今後の課題の一つ。

【各議員の所感 (一部抜粋)】

- 市民への理解を求めるために担当者が根気よく取り組んだ結果。強い熱意が形となった事業であった。
- 地方創生交付金の活用で活動を大幅に拡大させたとあったが、効果的な資金投入が重要だ。
- 浜田市ではオーガニックビレッジ宣言をしていることから大いに参考となる取組だ。



* 当該事業に長年携わる担当者からの説明



* JAS認証を取得した堆肥



* 堆肥化の現場

3、視察報告

(4) 鹿児島県大崎町

【視察内容の概要】

- 町内に焼却場はなく、徹底した分別によるごみの資源化と埋立て処分に対応。
- 焼却炉は全国で1000基。世界の焼却炉の2/3が日本。ごみの8割を燃やしている。
- 紙おむつも今年の4月から資源ごみ化された（ユニチャームと提携）。
- 分別は28品目。最終的に再度50程度に分別する。
- 焼却炉の建設について450回もの住民説明会を実施。結果、現在の手法を選択。
- ごみを出す世帯は年間500円を負担。衛生自治会が集金。
- 埋立てごみ量4000トン→690トンへ（あと40年使用可能）。
- 生ごみ、草木→完熟堆肥。
- 各集落のゴミステーションで天ぷら油も回収→バイオディーゼルの燃料に変えて、施設内のフォークリフトなどで利用。
- 企業に処理現場を見てもらって、分別しやすいパッケージの工夫などを働きかけている。
- 捨てればごみ、分ければ資源。

【各議員の所感（一部抜粋）】

- 役場と住民組織の連携で成り立っている事業であり、対話が欠かせない。
- ごみバケツはおがくずで拭き取る、近隣のよもぎで乳酸菌を生成、特産のさつまいもの粉碎機を改良した機器を活用するなど、徹底した工夫と節約が素晴らしい。
- リサイクルの仕組みが、雇用創出や人材育成などにもつながっており、まさに町のコア事業であった。



* 最終処分場となる埋立地



* 雑草などと混ぜて堆肥化



* 最終の分別は手作業で行われている

4、考察

①ソーシャルインパクトボンド（SIB）の可能性について

- ・ SIBは**成果報酬型**のため、合理的なコストでの質の高いサービス提供ができることから、**地方自治体等における財源調達的手段**として活用することの検討はすべき。
- ・ コストを多く要するにもかかわらず成果につながりにくい分野、予防することで課題を未然に防ぐといった分野（**社会保障関連事業等**）に適しており、PFIとは異なる分野での事業構築、並びに**民間事業者のリソース活用促進**が期待できる。
- ・ **サービス成果が可視化されるメリット**がある一方、運営が複雑化することに加え、投資の呼び込みなど不安材料もある。事業組成に置いて**初動のサポートをする事業体は欠かせない**。

4、考察

② Rorenから学ぶ福祉の考え方

- ・社会が必要とするアウトプットにつなげていく（**社会との関係性をつくる**）ことを重要視することで、高齢者の可能性と生きがいが大いに引き出されている。
- ・制作物は販売者によって評価（値決め）されている点や、誰が制作したのかは付加価値とする考え方も、**活動を社会に溶け込ませる**ためのポイント。
- ・一方で、作業や取組における利用者の方々の安全確保などへの配慮も必要であることから、同様の取り組みを実施するためには、**関係者間の理解**が欠かせない。

4、考察

③日置市及び大崎町におけるゴミ削減の取り組み

- ・市民と共に活動を推進するためには、**事業背景や目的の理解促進のための根気強い活動とわかりやすい情報提供**（数値を示す、結果的に他の市民サービスが充実するなど）に加え、それを支える**リーダーシップ**が必須である。
- ・両自治体で取り組まれている分別活動の副産物として生まれる堆肥とその活用といったサイクルは、オーガニックビレッジ宣言をしている浜田市でも大いに参考にできる。また、農業と環境各課が**部局を超えて取り組むこと**で、政策のインパクトも大きくなる。
- ・「**捨てればごみ・分ければ資源**」の考え方に基づいて、当市における**ごみ処理施策（リサイクル戦略）の再考**も必要。
- ・企業版ふるさと納税を活用し、**企業の協力を得ることで事業の推進力強化**が図られている。**まち全体としての取組**であるため、企業の賛同が得やすい。

(了)

福祉環境委員会